

【越前町】 校務DX計画

1. 趣旨

文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する必要がある。

越前町では、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度からICT環境の整備を進めてきた。しかし、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められている。これらの課題を解決するため、本町では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取組を進める。

2. 越前町における課題と取組について

(1) 校務系・学習系ネットワークの統合

教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方が一層求められている。そのため、ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、学校・町情報管理担当・関係業者と連携を図りながら、ロケーションフリーで校務系・学習系ネットワークへ接続可能な環境の整備（教職員用端末の一台化を含む）に向けた調査研究を進める。

(2) ペーパーレス化の促進

町のグループウェア機能により、学校間や教育委員会と学校との文書連絡・資料送付に活用している。また、教職員一人一人にはメールアドレスを付与しており、外部との連絡に活用している。

一方で、令和5年12月に文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されていることから、教育委員会と学校との事務文書決裁の見直しを行うとともに、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関・事業者等に対して、見直しを図るよう継続的に働きかけを行う。

(3) 次世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの活用

授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、MEXCBTなどの教育行政データ、児童生徒の出欠席及び成績情報等の校務系データなど、様々な教育データを収集・分析・加工して簡潔にまとめ、集計値や表、グラフなどで可視化するための管理ツール（データ連携基盤ダッシュボード）の導入や安全な通信環境下での校務における生成AIの活用に向けた検討を行う。